

式 辞

例年より早い花の便りと、澄み渡る春風に包まれて、本日ここに羽衣国際大学令和二年度入学式を挙行できますことは、本学にとって大きな慶びであります。

新入生の保護者やご家族の皆様におかれましては、ご子息が本日、大
学入学という晴れの日を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。
本来は皆様とともに新入生の大学生活のスタートをお祝いすべき
ところですが、現下のウイルス禍に鑑み、本年は新入生と大学教職員の
みで本式を執り行う事と致しました。ここに改めてお詫び致しますと
もに、ご理解を賜りたくお願い申し上げます。

本日、1年次現代社会学部175名、人間生活学部148名、3年次
編入学、現代社会学部4名、人間生活学部7名、合計334名の入学を
許可致しました。羽衣国際大学の教職員を代表して、皆さんの入学を心
よりお祝い申し上げます。ご入学おめでとうございます。

本学は、1923年(大正12年)に島村育人先生らによって設立され
た、羽衣高等女学校を起源とする大学であります。戦後、羽衣高等女学
校は羽衣学園中学校・高等学校となり、また1964年(昭和39年)に
羽衣学園短期大学が設立され、南大阪泉州地域の女子教育を担って参り
ました。本学は2002年に羽衣学園短期大学を一部改組転換して、男
女共学の四年制大学として設置されました。現在は現代社会学部2学科、
人間生活学部2学科、計2学部4学科を擁する大学となっています。

羽衣学園の建学の精神は、愛真教育に基づく「自由・自主・自律・個

性尊重の人間教育」です。創立者である島村育人先生は第1期の入学生に次の言葉を贈られました。「あなたが本校に在学なさることは本校の名誉であります」。私もまずこの言葉を新入生の皆さんに贈りたいと思います。

さて、昨今の新型コロナウイルスの蔓延は我が国のみならず全世界に広がり、深刻な社会問題となっていることは周知の通りです。この春に予定されていた選抜高校野球は中止となり、7月から開催予定だった東京オリンピック・パラリンピックの1年程度の延期も決定されました。いずれもそれぞれの長い歴史の中で初めてのことです。これまでも人類は多くの病魔と戦い、克服してきましたが、また新たな戦いが始まったといえるかもしれません。

こうした中で大学生活をスタートする皆さんに知っておいて欲しい言葉があります。

皆さんは「ミネルヴァのフクロウ」あるいは「ミネルヴァのフクロウは迫りくる黄昏(たそがれ)に飛び立つ」という言葉を知っていますか。この言葉は一八二一年ドイツの哲学者ヘーゲルが「法の哲学」という書物の序文に記した言葉です。「ミネルヴァ」というのはローマ神話で知恵の女神であり、フクロウはその使いとされている鳥です。古来フクロウは「知恵」のシンボルとされていますが、そのフクロウが「黄昏」つまり夕暮れ時になって活動する、ということを行っています。

これはどのような事を意味するのでしょうか。

フランス革命とその後の混乱、そしてナポレオンの登場などヘーゲルは欧州大陸での政治的な激動を目の当たりにしました。そこで「黄昏」とは時代や現実の変化や成熟であり、そのちに「知恵」、すなわち人にとっては「哲学」が始まり広がっていく、という事をヘーゲルは「ミネ

ルヴァのフクロウ」という比喩を使って象徴的に伝えたかったと考えられています。「理性的なものは現実的であり、現実的なものは理性的である」というヘーゲルの言葉と照らし合わせると理解しやすいかもしれません。

もっとも私がここで皆さんに強調したいのは、「フクロウ」もしくはそれに象徴される「知恵」そのものもさることながら、フクロウは「飛び立つ」つまり「行動する」ところに意味がある、という事なのです。

皆さんはこれから本学で全学共通の学びとそれぞれの学部学科コースにおいて専門的な学修を始めます。そこでそれぞれ実社会で通用するような知識や技能を修得することになります。例えば、本学には管理栄養士課程があり、管理栄養士を目指して入学した皆さんも多いと思います。管理栄養士になるためには四年後の国家試験に合格しなければなりません。そのために多くのことを学び、技能を身につける必要があります。

ただそこからさらに重要で「管理栄養士」の社会的意義や役割を理解し、自分の実際の行動に結びつけ他の人々に良い影響を与えてこそ、本来の学びを身に付けたといえるのです。いくら管理栄養士の資格をもつていても自ら暴飲暴食をしたり、食生活に気を配らないのであれば、それは本来専門分野を学んだことにはならない、と思います。経済や経営、メディア等他の専門分野でも同じです。世の中には法律の専門家でありながら、法律をないがしろにする人がいます。これでは単に表面的に知識として法を学んだだけであり、真に法の考え方、法の間を学んだとは言えません。また科学者であるならば、専門分野のみならずどのようなテーマであれ客観的なデータに基づいて議論することを常とすべきでしょう。これから皆さんが取り組んでいく学問というのは、自分の行動を規律する、あるいは自分自身を律する、そういうものだと思います。先のヘーゲルの言葉に即していえば、いくら知恵があっても、知恵だけ

あつて「飛び立たない」フクロウにはなつてほしくないのです。

大学入学にあたりもう一度、自分が大学で学ぶことの意味を考え直して頂きたいと思います。大学は表面的、刹那的な知識や技能を伝える所ではありません。一人一人が社会に出て羽ばたくための自主的で自律的な「学び」を行うところなのです。

現在のウイルス禍は、世界の「黄昏」を感じさせるものです。実は先に言葉を引用したヘーゲルも、当時流行したコレラによって故郷ドイツで命を失っています。そのドイツではメルケル首相が現在のウイルスの蔓延を第二次世界大戦以来の重大事であるとし、危機感を表しています。こうした中で大学生活をスタートする皆さんはまさに「黄昏に飛び立つフクロウ」でなければなりません。しっかりと現実を直視し、学問を身に付け、自らを律して社会に貢献することを目指してほしいと思います。

羽衣学園の「羽衣」は地名であり、もともとは日本各地にある羽衣伝説に由来するものです。しかし「羽衣」の「羽」は、皆さんにとって「飛躍の羽」「成長の羽」そして「挑戦の羽」であり、「ミネルヴァのフクロウの羽」であつて欲しいと思います。

本学入学が皆さんの人生にとって新たな出発点となり、これからの実りある人生につながっていく事を願つて、入学式の式辞と致します。

令和二年四月二日

羽衣国際大学学長 吉村 宗隆